

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		自然エネルギーを巡る新しい社会的対話プラットフォームの形成			
研究テーマ (欧文) AZ		Shaping of new social dialogue platform for renewable energy			
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓)イイダ	名)テツナリ	研究期間 B	2007 ~ 2009 年
	漢字 CB	飯田	哲也	報告年度 YR	2009 年
	ローマ字 CZ	Iida	Tetsunari	研究機関名	環境エネルギー政策研究所 (ISEP)
研究代表者 CD 所属機関・職名		環境エネルギー政策研究所 (ISEP) 所長			
概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)					
<p>風力発電に関する問題について、利害関係者のコミュニケーション不足や認識不足を解消することにより、現在もしくは将来に発生する利害対立を回避するような方策の提言を目指すことを目的に研究を行った。</p> <p>具体的には、海外文献の調査等を行い事前に検討すべき論点を挙げた後、各アクターの対話の「場」として、風力発電事業者、風力発電業界団体、自然保護団体、環境コンサルタント、学術研究機関、政府機関などを招いた検討委員会(風力発電と自然保護懇談会)を2008年1月~2009年4月の間に計6回開催した。この検討会では、各主体の発言内容の自由度の向上と、必要な情報の網羅性や精度が高まることを目的に、「チャタムハウス・ルール」(発言内容の守秘と引用禁止を相互に約束した上で、立場を越えた自由な発言を保証するルール)という条件を設定している。この条件の下で、利害当事者間での自由な意見交換を行った成果を「鳥類の保全と風力発電に関するコンセンサスに向けた提言」(風鳥コンセンサス)としてまとめ、本研究の成果報告とコンセンサス文章を公表するシンポジウムを2009年5月16日に開催した。</p> <p>計6回に及ぶ検討、およびシンポジウムを通じて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鳥類保全の立場をとる人々の間に風力発電に対する知識の大幅な差異があり、風力発電の必要性や世界的な位置づけが十分に共有されていないこと、 2. 国の風力発電に対する制度が整備されておらず、環境アセスメントや周辺住民への情報開示よりも先に、電力会社の風力発電募集枠に入ることが優先されてしまう、また、電力会社の買い取り価格が安いことによる事業を行う上での採算性の面からも十分な対応ができないこと、 3. 鳥類保全に対する他のリスクとのリスク相対化の視点が必要であること、 <p>等が明らかとなった。</p> <p>しかし、風力発電の大量かつ急速な普及というのは、新しい社会的現実であり、国内外ともに議論が始められて間もない問題であるため、各アクター間での情報、認識(共通点と違いの両面)の共有が検討会の中心事項となる側面があった。基本的な風力発電、鳥類保全についての情報共有を行った上での更なる議論が今後必要である。</p> <p>また、風力発電と社会との関係では、鳥類に限らない他の自然保護の視点や低周波騒音などの人と風力発電とのあり方に関する論点、あるいは風力発電以外の自然エネルギーと社会との関係性に関しても、今後、幅広い対話と合意形成の取り組みの必要性が、ワークショップやシンポジウムを通して共有された。(1021 字)</p>					
キーワード FA	風力発電	鳥類保全	社会的合意		

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA									
研究機関番号 AC					シート番号									

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 EZ

The research project was conducted for the purpose of providing a policy that avoids current or future conflicts on construction of wind turbines through the dialogues among stakeholders to fill the communication or recognition gap.

Actually we listed up the points to discuss with literature survey, then we hold committee meetings as “space for dialogue”, which were consisted of representatives from wind power project developer, wind power association, nature preservation society, environmental consultant, academic institute, governmental organization. The committee meetings were hold total six times from January 2008 to April 2009. These committee meetings were conducted under the condition of Chatham House Rule in order to increase the freedom of speakers: participants are free to use the information received, but neither the identity nor the affiliation of the speaker(s), nor that of any other participant, may be revealed. Thereafter, the results of the meetings were gathered together in “Suggestions towards consensus on avian conservation and wind power: Wind-birds consensus”, then we hold a open symposium on May 16th 2009 in order to present the research results. The major findings were:

1. There were steep knowledge gap in those who are in the standpoint of avian conservation, then stakeholders had not share the need for wind power and its global situation.
2. There are inadequate institutional arrangements in wind power projects planning and assessment.
3. We need the perspective to relativize risks on avian conservation and other risks.

The rapid and large amount of wind power diffusion is a new reality, therefore the discussion tended to focus on the cognitive gap among stakeholders. It is important to share information and knowledge to fill the gap with dialogues, and it is also important to elaborate discussion further based on such common understanding.